

夕張川河川整備計画の 一部変更について

石狩川流域委員会（第30回 平成26年10月27日）

自然再生に関する事項の追記

石狩川下流域の自然再生の取組みを夕張川の幌向地区に拡充するため、自然再生に関する事項を追記します。

社会情勢の変化に対応するための取組み等の追記

平成17年4月の整備計画策定後の社会情勢の変化に対する取組みを追記するほか、計画に記載されている各種データの更新を行います。

(地震対策、サイクル型維持管理、特定外来種対策、特定緊急水防活動 など)

石狩川下流自然再生計画書の改定

幌向地区自然再生

石狩川自然再生勉強会(平成19年3月時点)

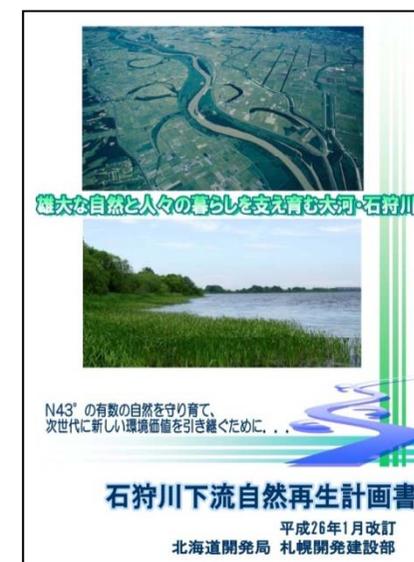
黒木幹男	北海道大学 大学院 工学研究科 環境資源工学専攻 助教授
辻井達一	財団法人 北海道環境財団 理事長
中村太士	北海道大学 大学院 農学研究科 森林管理保全学講座 教授
山下彰司	独立行政法人 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 上席研究員
渡邊康玄	独立行政法人 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 上席研究員

敬称略・50音順

平成14年度 石狩川自然再生勉強会を組織

平成19年3月 『石狩川下流自然再生計画書』策定

平成26年1月 『石狩川下流自然再生計画書』改定
※幌向地区を追記



《追記内容》

→ 第3章 自然再生計画 3-3 整備内容の整理 表3-1中に、以下のとおり幌向地区を追記。

表 施策の整理

地点	環境整備	整備内容	湿地環境
幌向地区	湿地の整備	・高水敷を活用し、湿地環境を整備	湿地7ha

石狩川下流幌向地区の変遷

幌向地区自然再生

- ・開拓期以降、夕張川流域において農地への土地利用や可住地の創出が行われた結果、低平地の湿原面積は、明治期には約104km²ありましたが、現在は約0.1km²に減少しました。
- ・かつては夕張川下流域に幌向原野が広がり、湿生植物が生育していましたが、現在は幌向原野の名残である泥炭が夕張川の高水敷に残るのみです。



夕張川流域における湿原面積減少の状況※

※北海道殖民地選定報文附図、国土地理院古地図、国土地理院地形図及び国土庁土地分類図(土壤図)をもとに作成。

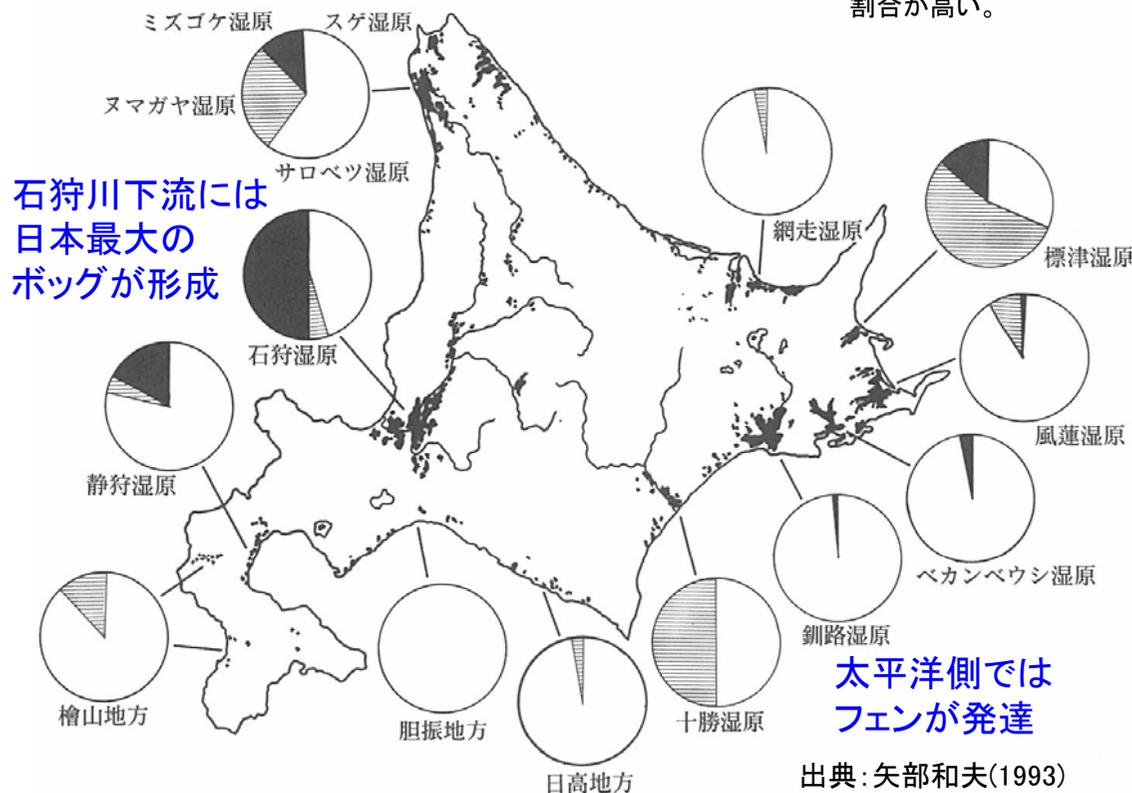
石狩川下流域の高位泥炭

幌向地区自然再生

- ・泥炭分布の状況から、ミズゴケ由来である高位泥炭が多く分布していることから、石狩川下流ではボグ(≒高層湿原)が大きく広がっていたものと推定されます。
- ・石狩川下流域に広がっていた湿原の面積は減少の一途をたどっており、現存する地表上の高位泥炭は高層湿原を再生するうえで希少なものとなっています。

湿原	主な優占植物	基盤となる泥炭
フェン(≒低層湿原)	スゲ、ヌマガヤ	低位泥炭
ボグ(≒高層湿原)	ミズゴケ	高位泥炭

※下図における黒斑は泥炭分布を表わし、石狩湿原では泥炭分布範囲に占めるボグの割合が高い。



北海道の低地に分布する各湿原のミズゴケ湿原、ヌマガヤ湿原、スゲ湿原の割合



石狩川下流域の泥炭分布※(昭和47~50年調査)
 ※出典: 国土庁土地分類図(土壤図)をもとに作成

幌向原野で発見された『ほろむい七草』

- ・我が国における湿原植物研究の発祥の地の一つ*である幌向原野は、高層湿原を主体として現夕張川KP0～10付近に広がっていました。
- ・幌向原野で発見され、ホロムイを冠する和名が付けられた7種の湿生植物『ほろむい七草』は、高層湿原の減少に伴い、ほとんど確認されなくなっていました。
- ・そのような中、故 辻井達一先生の呼びかけにより、多様な主体が参加して調査が行われました。
- ・夕張川では、平成22年度にほろむい七草のうち3種類が確認されました。
- ・その後の調査により、かつての幌向原野を含む周辺の原野において平成24年までに7種すべてが確認されました。



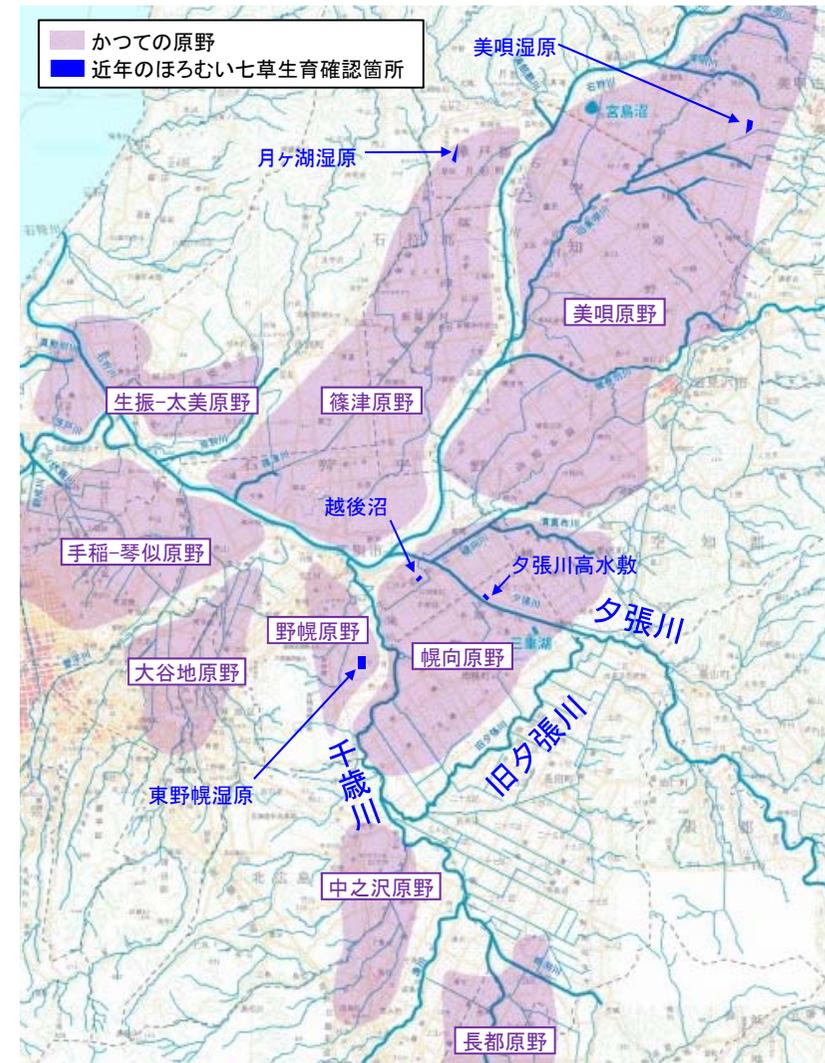
【希少性】ホロムイコウガイ : 絶滅危惧 I B類(環境省レッドリスト2012)
絶滅危急種(北海道レッドデータブック2001)

ホロムイクグ : 絶滅危惧 II 類(環境省レッドリスト2012)
絶滅危急種(北海道レッドデータブック2001)

ホロムイリンドウ : 希少種(北海道レッドデータブック2001)
存続基盤が脆弱な種

ホロムイチゴ : 貴重植物(緑の国勢調査1976)

※出典: 湿原生態系, 辻井達一ほか(1994年)



石狩川下流幌向地区
自然再生実施計画書

ほろむい原野の原風景をめざして

平成26年3月
石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ

石狩川下流幌向地区において地域と協働した湿地環境の再生を行うために、関係行政機関等や石狩川下流幌向地区に関わり湿地環境の再生・地域の活性化等に意欲を有する方(有識者、研究機関、地域団体)をもって構成する石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップを設立し、平成26年3月に「石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書」を策定しました。

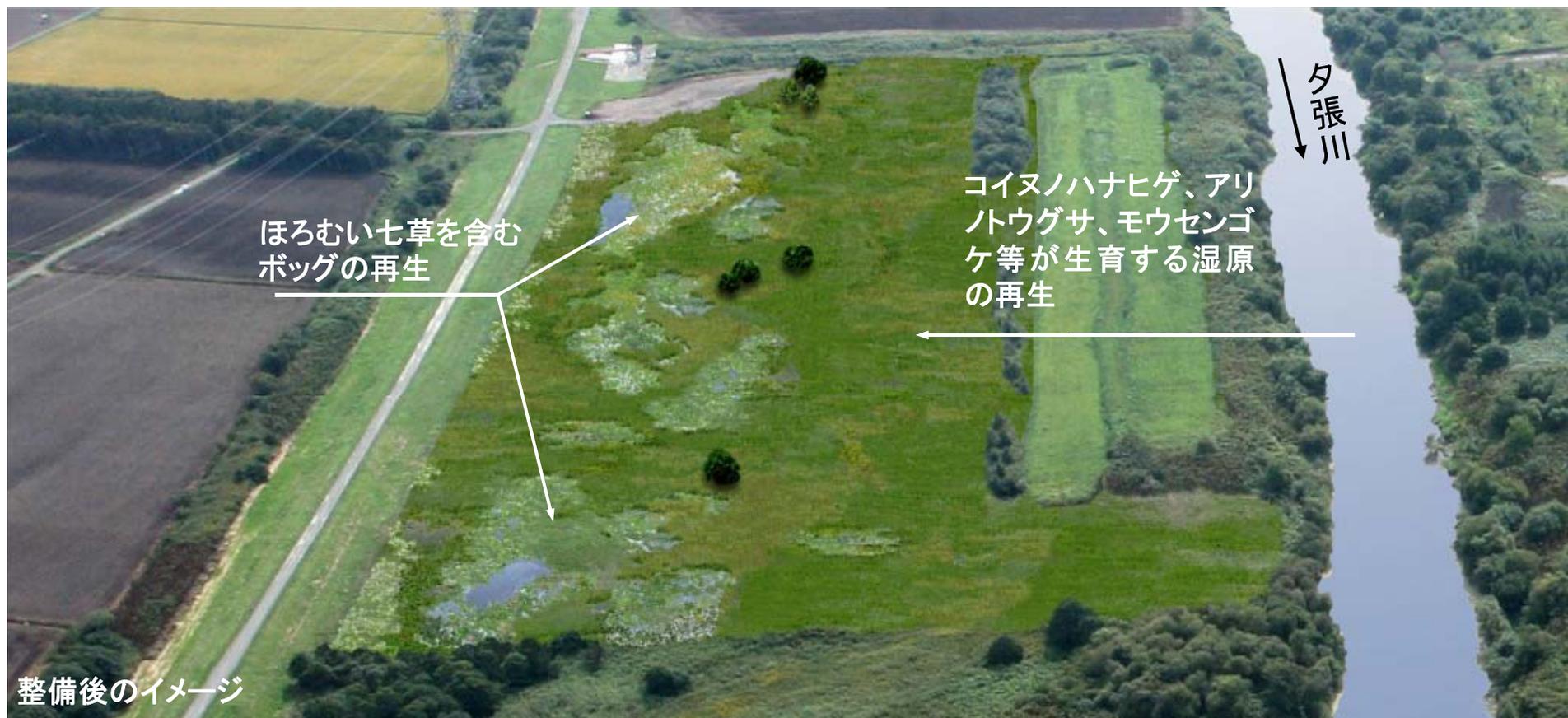
石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップメンバー

敬称略

氏名	所属
矢部 和夫	札幌市立大学 大学院 デザイン研究科 教授
錦織 正智	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 緑化樹センター 主査
永田 修	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター 主任研究員
船木 淳悟	独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地河川チーム 上席研究員
平井 康幸	独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 水環境保全チーム 上席研究員
松田 泰明	独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 地域景観ユニット 総括主任研究員
鈴木 玲	雪印種苗株式会社 環境緑化部 緑化事業課長
濱田 暁生	NPO法人 ふらっと南幌 代表理事
小林 重雄	南幌町 郷土史研究会 副会長
川村 英俊	南幌町 都市整備課長
浅野 茂	南幌町 教育委員会 生涯学習課 社会教育グループ リーダー
橋本 雄太	空知総合振興局 地域政策部 主幹
柘井 正将	札幌開発建設部 河川計画課長
岡部 啓二	札幌開発建設部 江別河川事務所長

ワークショップ現地視察状況
(平成26年7月)

※平成26年4月現在



※注：現時点におけるイメージであり、今後変更の可能性がります。

○地震対策

地震対策に関する取り組みの方向性等

○サイクル型維持管理

近年の「サイクル型維持管理体系」の構築など、維持管理の取り組みの方向性等

○特定外来種

特定外来種の拡大防止に向けた取り組みの方向性等

○特定緊急水防活動

水防法改正に伴い、新たに制定された特定緊急水防活動について、取り組みの方向性等

○データの時点更新

水文・水質、動植物の生息・生育状況、河川整備状況等